SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS
Vol.211　/　2023.NOV
（月1回発行）

令和5年度地域防災人材育成プログラム「SDGs防災セミナー」開催！！

11月21日（火）に、仙台大学川平キャンパスにて地域防災人材の育成を目的とした「SDGs防災セミナー」を開催いたしました。

本学の教員のみならず、（一社）日本キリバス協会やニュージーランドのカンタベリー大学からも講師をお招きし、国際的な環境保全や身近な地域防災といった多様な視点からの講演が行われました。

また、パネルディスカッションでは、参加した高校生、仙台大学、カンタベリー大学のビリー・オースティン が「いま、私たちにできること（SDGs）」をテーマに議論や意見交換がなされ、地域コミュニティと教育機関の役割について、皆で考える機会となりました。

本学では、カンタベリー大学と連携協定を結んでおります。カンタベリー大学はニュージーランドの国立大学で、148年の歴史と伝統を持ち、学生1万6000人余りが通っている総合大学です。スポーツコーチングの分野では国内有数の高い評価を得ています。

本部の所在地であるクライストチャーチ市は大きな地震に見舞われることが多く、2011年の東日本大震災を経験した本学と同大学は2016年より被災地復興をテーマに学生交流を行っています。

〈 目　次 〉

・令和5年度地域防災人材育成プログラム「SDGs防災セミナー」開催！！	1
・第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に東北学連選抜として3名の選手が出場しました！！／陸上競技部女子駅伝ブロック ・第62回東北バレーボール大学男女リーグ戦優勝！！／男子バレーボール部	2
・現代武道学科学生が宮城県警察学校「愛島祭」でリーゼント刑事と対談！！」 ・介護ロボットセミナーを開催しました！！	3
・今年度2回目となる模擬授業研究会「せんだい実習」を開催！！ ・履修証明プログラム　「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を開講！！	4
・スポーツアナリスト座談会vol.3を開催しました！！ ・楽しく元気になる！「高齢者の運動教室」体験！！	5
・大河原町ベビーファースト活動宣言セレモニー　記念講演を実施！！ ・富谷市内小学校の金管バンド活動を支援　第3弾！！	6
・ＳＷＣＣ(株)「健康支援プロジェクト」が始まりました！！ ・気分爽快！ノルディックウォーキング体験！！	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.67	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。
本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に東北学連選抜として3名の選手が出場しました！！／陸上競技部女子駅伝ブロック

10月29日（日）に開催された、第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会において、東北学連選抜チームとして、6区間中、本学から3名の選手が出場しました。

1区の伊東は、全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会において、1区で見事、東北福祉大学を抑え区間賞を取った調子をそのままに、名城大学はじめ全国の強豪校とも堂々と競り合い、区間10位という素晴らしい走りをしてくれました。3区を走った木下もアップダウンの厳しいコースながらもしっかり襷をつなぎ、5区を走った木戸は、9.2ｋｍの最長区間を走りました。

3人ともそれぞれ重要な区間でしたが、沿道からの声援、テレビの前での応援、関係者の支えがあって、最後まで あきらめず粘り強く走ることができました。本当にありがとうございました。

来年度は、東北福祉大学が8位以内のシード権を確保したため、東北枠が1校増えます。仙台大学として単独チームで出場できるようこれからの一年、気を引き締め、チーム一丸となって挑んでいきます。

＜陸上競技部女子駅伝ブロック＞

第62回東北バレーボール大学男女リーグ戦優勝！！／男子バレーボール部

男子バレーボール部は、第62回東北バレーボール大学男女リーグ戦において全勝優勝を達成し、リーグ戦での6連覇を果たしました。

この優勝をもって、仙台大学は東北地区予選で1位通過を確定し、第76回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会（インカレ）への出場権を獲得しました。

また、11月28日（火）から開催されていた、全日本バレーボール大学男子選手権大会1回戦では、立正大学（関東2部）と対戦し3-1 勝利。 2回戦では、強豪の日本体育大学（関東1部）と対戦し、惜しくも0-3で敗戦となりました。

＜男子バレーボール部＞

現代武道学科学生が宮城県警察学校「愛島祭」でリーゼント刑事と対談！！

11月23日（木）、名取市愛島に所在する宮城県警察学校の学生と地域住民等の交流を目的に開催された「愛島祭」にゲスト出演した「リーゼント刑事」の名で有名な元徳島県警警察官の秋山博康氏の警察官人生を振り返る講演に先立ち、警察官をめざす本学現代武道学科3年の男女学生6名が秋山氏との対談を行いました。

対談は、警察学校講堂に来場した警察学校学生や一般聴衆など、約200名の面前で行われ、警察官の志望動機を発表したほか、秋山氏に対して刑事の苦労や意気込みなどを質問し、将来に向けた貴重なアドバイスを受け、興奮冷めやらぬ面もちで壇上を後にしました。

対談後は、聴衆の最前列で秋山氏の講演を聞き、さらに秋山氏から「頑張って必ず警察官になって下さい。」という力強い激励を受け、それぞれ、「緊張したが貴重な体験ができた。ますます警察官になりたいという気持ちが強くなった。」などと話し、警察官採用試験に対する気持ちを新たにしていました。

＜現代武道学科＞

介護ロボットセミナーを開催しました！！

11月14日(火)に仙台大学附属明成高校、福祉未来創志科1年生14名の皆さんを対象に介護ロボットセミナーを開催しました。このセミナーは本学健康福祉学科と高校福祉未来創志科の高大接続事業の一環としても取り組んでいるものです。

介護ロボットは何かを学んで、最新の移乗・移動支援ロボット、コミュニケーションロボットの他、非接触・非装着型モーショントレーニング機器で体を動かし、認知症VRも体験しました。

参加した生徒は、「楽しく学ぶことができた」「あっという間に時間が過ぎてしまった」「こんなロボットがあると介護現場も楽しくなる」など、話しており楽しく学んでいました。
また、一緒に参加した大学生も、「授業で学んだことを高校生に伝え、教えることの楽しさを再認識した」「コミュニケーションの能力が向上した」など、高校生、大学生のお互いにとって、とても良い機会となりました。

今後も健康福祉学科の介護福祉士養成課程では、学生のフレッシュな力、最新の介護ロボットの体験を基盤に介護の魅力を発信して参ります。

＜健康福祉学科＞

今年度2回目となる模擬授業研究会「せんだい実習」を開催！！

11月3日（土）、4日（日）に3回目となる模擬授業研究会「せんだい実習」を宮城教育大学とともに開催いたしました。今回の実習には、尚絅学院大学、東北文教大学短期大学部、武庫川女子大学、一関工業高等専門学校で体育科教育（および教養体育）を担当している教員にも参加いただきました。

この実習は、授業づくりに求められる実践力ならびに教材に対する深い理解を育むことを目的として実施され、本学からは教職を目指す学生で構成される大学院生と学部生、さらに本学を巣立った現職教員名が参加しました。

今年度はテーマに「ダンス」を取り上げました。実習では2日とも本学学生および宮城教育大学の学生によって模擬授業が実施されました。さらに模擬授業後に実施された検討会では授業の成果と課題について、学生と教職員が合わせて分析検討を行いました。この検討を通じて、学生たちは授業づくりにおける重要な学びを得ることができ、非常に有意義な経験となりました。

今回の「せんだい実習」は体育系学生と教育系学生に加えて保育系の学生が参加しました。それぞれの専攻で学んだ知識を集約し、ひとつの実践の改善に向かう大変貴重な機会となりました。本実習に参加した学生たちが、今後の教育現場で実践的な指導を行えるよう、教員としての更なる成長を目指して参ります。今回の経験を基に、より充実した教育の提供を目指して参ります。

＜教職支援課＞

履修証明プログラム　「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を開講！！

10月29日（日）、令和5年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」がスタートし、1回目の講義が実施されました。

地元からだけでなく、遠方からの参加者（オンライン参加）も集い、自己紹介から始まりました。参加者からは、普段交流することができない地域や境遇にいる、幼児教育の指導者との意見交換の場であり、あらたな学び直しに期待したい等の声が上がりました。

本学客員教授の原田先生からは、子どものこころとからだを育むことのできる「運動あそび」を経験することの保育的意義について話がありました。

このプログラムは、保育者・幼児体育指導者等が、乳幼児の運動あそび指導に必要な知識・技術及び技能を高める機会を広げるとともに、保育実践力の向上を目指し、半年間実施され、修了者には、学校教育法に基づく「履修証明書」が発行されます。

＜機構事務課＞

スポーツアナリスト座談会vol.3を開催しました！！

今回の発表者は、男子サッカー部アナリストの千葉凌さん、柴田昌汰さんの2名です。アナリスト人生をスタートさせたばかりの2人ですが、授業や研究会での活動を通して様々な知識やスキルを身に付け、現場での活動に活かしています。

今シーズンはBチームの活動に同行し、分析業務をはじめ練習の手伝いや練習後にコーチとのディスカッションを重ねて戦術的な理解を深めてきました。試合時には映像の撮影や、ロングボールの追跡などの視覚的なスタッツの収集を行なったり、リーグ戦でセットプレーからの失点が多く負けてしまう試合が多かったことを踏まえ、それらの映像を編集し改善を促したり、チームの課題を克服するために情報戦略面でのサポートを行ってきました。

時にはチームを離れ、日本代表のアンダーカテゴリの合宿にも参加し、トレーニングを撮影・編集したものをフィードバックするなど、日本のトップレベルでの経験を通して多くのことを学んできました。

さらに分析の質を上げて高みを目指したいと話しており、チームの活動以外でも自ら情報を収集して新たな分析手法を学ぶなど、今後の活躍が益々楽しみなアナリストチームだと思います。

＜スポーツ情報マスメディア学科＞

楽しく元気になる！「高齢者の運動教室」体験！！

健康福祉学科では「健康支援・介護予防演習」（2年次）において、日頃、運動指導をされている講師から健康運動指導の実際について学んでいます。

2回目の今回は「高齢者の運動教室体験」で、坂上香里さん（健康福祉学科卒業・健康運動指導士、仙台市健康福祉事業団等の運動教室を担当）にご指導いただきました（11月2日）。

高齢者運動教室についてのミニ・レクチャーのあと、椅子を使ってのストレッチ、タオルを活用した手指の機能改善運動、音楽に合わせた楽しい体操などを体験をしました。

学生からは、「体を動かすのが苦手な人でも、楽しくできると思った」「ゆっくりと段々と体を慣らしていくことが大切と学んだ」「高齢者が行っている運動だが元気になり、筋トレもいい運動になった。頭を使う体操も難しく驚いた」「高齢者個々への工夫や配慮がとても参考になった。健康づくり運動サポーターの活動で、活かしたい」「軽い運動でも続けると、フレイル予防につながることが実感できた」など体験ができて良かったとの感想が寄せられました。

心身の健康と福祉（しあわせ）を感じ、今後も学んでゆきます。

＜健康福祉学科＞

大河原町ベビーファースト活動宣言セレモニー　記念講演を実施！！

10月26日（木）、大河原町主催の「大河原町ベビーファースト活動宣言セレモニー」が開催され、子ども運動教育学科の賞雅 さや子教授が「身近なところからはじめようベビーファースト」と題して記念講演を行いました。

当日は、アイリスオーヤマ㈱ほか、町内の18団体がベビーファースト運動への参画を宣言、賞雅教授の講演では、参加者が熱心に耳を傾ける様子が見られ、子ども・子育て支援の意識の高さが垣間見えました。

＜機構事務課＞

富谷市内小学校の金管バンド活動を支援　第3弾！！

9月に引き続き、10月14日（土）、富谷市と本学との包括連携協定に基づき、小学校金管バンド活動に対する支援事業を実施しました。

当日は、学生生活課の伊野部剛史さんを講師とし、「富谷小学校」の児童ら約15名を対象に富谷マーチングフェスティバルに向けた練習を行いました。涼しくなった体育館にてやっと本格的な練習ができるようになりました。

全体的演奏や演技の調和の向上を目的とした、フォーメーション（隊形移動の拍・位置）の確認や視覚的効果を狙い演出されたパフォーマンスのタイミングを何度も繰り返し調整されました。音楽の身体表現であるマーチングは、動きを見せる部分と立演奏しながら楽器操作やダンスなどを行うパフォーマンスがあり、音楽を効果的に表現する方法として、タイミングや細かな足の向き、楽器の角度まで熱心な指導が行われました。

児童たちからは、練習後、「普段の練習でも気を付けて取り組みたい」「富谷マーチングフェスティバルでは今日学んだことを活かしたい」との声が寄せられました。また、顧問の先生方からは、「子どもたちに直接細かな部分の指導がありがたい」「専門的な知識をアドバイスしていただき自分自身の勉強になる」との意見がありました。

本支援事業では、本年度中に市内全ての小学校で支援予定ため、次回は、大会が終わった冬から次年度に向けたウィンタートレーニングを含めて、新体制での指導を12月より2月にかけて残りの小学校で開催する予定です。

＜機構事務課＞

ＳＷＣＣ(株)「健康支援プロジェクト」が始まりました！！

10月25日（水）より、ＳＷＣＣ(株)の従業員向けに「健康支援プロジェクト」が始まりました。

この健康支援プロジェクトは、本学の教職員が12月まで4回にわたり様々なテーマで実施する予定で、ＳＷＣＣ㈱殿が実施する健康増進の取組みに対する支援として関わっていくものです。

受講者約20名に対し、初回はプログラムの説明、ＩｎＢｏｄｙ（体組成計）による体脂肪や筋肉量等の測定を行い、身体のむくみやバランスなど、測定結果について具体的な説明、アドバイスを行いました。

＜機構事務課＞

気分爽快！ノルディックウォーキング体験！！

健康福祉学科では、11月9日（木）晴天のなか、ノルディックウォーキング（NW）を体験しました。2年生開講科目である「健康支援・介護予防演習」の一環で、講師は、同学科卒業生の星勝久さん（国際NW連盟公認ナショナルトレーナー）でした。

まず構内でポールの調整、準備体操、基本動作の練習を行い、早速、学外へ！タウンウォッチングで住民とも交流しながら、桜で有名な船岡城址公園を一廻りして、坂の上り下りの練習も。

学生からは、「ポールを使った準備体操が効果的だった」「ポールの扱いが意外と難しかったが慣れると、歩きやすくなった」「上半身も使い、良い運動になった」「正しい歩き方、ポールを押すなどコツをわかりやすく教えてもらい、坂道も楽だった」「コースが気持ち良く新鮮で、長い距離も楽しく歩けた」「高齢者や障がい者も楽しめると思った」等の感想がありました。

講師からも「NWは通常歩行よりエネルギー消費が多く、また、必ず地面にポールが着いているため高齢者などでも安心感があります。これを機会にさらに学んでもらえると幸いです」とのことでした。

＜健康福祉学科＞

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.67

担当：高野　順平　助手

高校スポーツでは、10月中旬から冬の全国大会に向けた宮城県予選が始まり、全国大会に勝ち進めなかった3年生にとっては、高校生最後の大会になってしまいました。その後、スポーツによっては新人戦がすぐに始まり、川平ATルームでも試合への帯同やケガからの復帰へ向けたサポートなど、忙しい時期が続いていました。

また、川平ATルームのスタッフは、仙台大学附属明成高校スポーツ創志科の授業も担当していて、10月から11月にかけては担当授業も多くあり、準備に追われる時期でした。授業のテーマは昨年度から大きな変更はなかったものの、今年度から使用を始めている川平KMCHにある機器をいかに高校生の授業に取り入れ、新たな発見や興味を引き出すという取り組みを行っております。

私が担当しましたスポーツ傷害に関する授業でも、昨年度は教室での座学が中心でしたが、今年度はスポーツ傷害のリスクになるような姿勢や体の使い方を、筋電計を用いて筋活動を見ながら実際に動いてみたり、少しずつではありますが、今までとは違う授業を展開しております。

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園（明治12年開設）の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。

なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能力を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科（修士課程）も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみることが好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 （リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください）

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（仙台大学学則別表第一）

■3つのポリシー ①学部 ②大学院
③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科
⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画